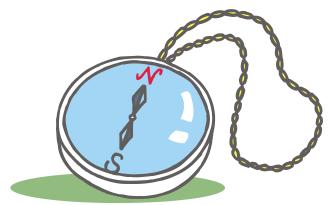


羅針盤



第 32 号 令和4年(2022年)2月21日(月)

◆ 生徒会 後期の目標『SDGs』

生徒会新聞の後期第1号(2021年12月9日発行)に掲載されていましたが、生徒会での後期の目標は『SDGs』です。つまり、S(積極的に行動する)、D(誰とでも話し合える)、G(元気にあいさつできる)、s(住中生)になろう!ということです。この言葉の実現に向けて、生徒の皆さん一人ひとりが、しっかりと意識しながら、活動してもらいたいと思っています。本来のこの言葉『SDGs』が目ざしている意味についても触れておきたいと思います。『SDGs』が国連で採択されてからすでに7年目をむかえることとなります。『SDGs』とは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)のこと、17のグローバル目標と169の達成基準(ターゲット)からなります。『SDGs』の17のグローバル目標、それは、①貧困をなくそう、②飢餓をゼロに、③人々に保健と福祉を、④質の高い教育をみんなに、⑤ジェンダーの平等、⑥安全な水とトイレを世界中に、⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに、⑧働きがいも経済成長も、⑨産業と技術革新の基盤をつくろう、⑩人や国の不平等をなくそう、⑪住み続けられるまちづくりを、⑫つくる責任つかう責任、⑬気候変動に具体的な対策を、⑭海の豊かさを守ろう、⑮陸の豊かさを守ろう、⑯平和と公正をすべての人に、⑰パートナーシップで目標を達成しようとなっています。日本政府のSDGs推進本部は2016年12月に実施指針を決定しており、2017年の世界経済フォーラムにおいてSDGsの推進により年間最大12兆ドルの価値、3億8千万人の雇用が創出されるという推計が出たことを契機として、日本の経済界でもSDGsに積極的に関わるようになってきました。『SDGs』は、人類社会のめざすべき姿を国連が定めたものであり、たくさんの企業がSDGs経営に関わることで、企業価値を高めていくことができるそうです。『SDGs』を経営と結びつけていく事業活動を行うことによって、社会・経済・環境において企業が抱え持つ課題の解決につながっていくということのようです。また、『SDGs』は申請や許可を取る必要はなく、登録料なども不要であるため、いかなる企業でもすぐに取り組むことができる事が、多くの企業の参画につながっているようです。そして、『SDGs』は2030年までの実施を目的に掲げていて、『SDGsアクションプラン2020』といったものがSDGs推進本部で作成されていて、その代表的な取り組みは、(1) 経済やビジネスの観点から、(2) 地方創生の観点から、(3) 女性活躍推進、高校無償化、高

齢化など主に人にまつわる観点から、となっていて、これら3つの観点に重点をおいて推進されていくそうです。生徒の皆さんには、生徒会の目標に沿って、何事にも積極的に行動し、多くの人の意見に耳を傾けてしっかりと話し合って、互いに元気に挨拶できる仲間とのつながりを大切にできるといった3つの行動を日頃の学校生活でも意識しながら、誰もが有意義な学校生活を過ごせる住中生をめざしてもらいたいと思います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

